

8/5

親子で大にぎわい 母子夏まつり開催

蛇 田郷土資料館前の駐車場で母子夏まつりが行われました。巨大シャボン玉やヨーヨー釣り、水鉄砲などのブースが設けられ、多くの参加者でにぎわいました。

参加者の中には、浴衣を着て参加する子どももあり、友だちと楽しく会話しながら、夏祭りの雰囲気味わっていました。また、子どもたちだけでなく、父親、母親同士の貴重な交流の場にもなりました。



巨大シャボン玉をつくる参加者

8/1

災害下でも安心と安全を 町と(株)セコマが協定締結

町 と(株)セコマ(丸谷智保会長)が「まちづくり連携に関する協定」と「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結しました。

まちづくりの協定は、地元食材を使った商品開発などで相互協力を図ります。また、物資供給に関する協定により、災害時に町の要請を受けたセコマから食料や水を供給してもらうことができます。丸谷会長は「災害時には支援に駆け付けたいです」と話していました。



協定を締結した丸谷会長(左)と下道町長(右)

8/16~18

蛇田の夏の風物詩 蛇田神社例大祭

蛇 田神社の例大祭が行われました。16日は「奉納子ども相撲大会」などが行われ、小さな力士たちが迫力の取組を見せました。

本祭の17日は、神輿渡御が行われました。2基の神輿が町中を練り歩き、最後は神社の石段へ。一気に本殿まで駆け上がり、観客から大きな歓声が湧き上がりました。境内には露店が立ち並び、大勢が久しぶりに帰ってきた祭りのけん騒を楽しんでいました。



石段を駆け上がる神輿と担ぎ手

8/15

戦渦の記憶を学ぶ 戦争を語り継ぐ集い

戦 争の悲惨さを学ぶ「戦争を語り継ぐ集い」が開かれました。

町内の小学生などが参加し、始めに原爆が投下された広島を題材にした紙芝居の朗読が行われました。

中学校に上がる前に原爆症を発症し、10年後に白血病で亡くなった佐々木偵子さんの物語を通じて被爆者の苦しみを学んだ後、全員で千羽鶴を作成。平和への祈りを込めながら一羽ずつ、いねいに作り上げていました。



紙芝居の朗読を聞く参加者

8/23

農家が情報交換 洞爺湖町農業技術研修会

洞 爺湖町農業技術研修会が行われました。町内の若手農業者を対象に例年行われており、今回はトラクターの「自動操舵システムの応用・活用」がテーマとなりました。

自動操舵トラクターは近年急速に普及が進んでおり、参加者はメーカ担当から操作方法などの解説を受けました。

その後はデモ機を使った説明もあり、参加者は興味深そうに耳を傾けていました。



トラクターを見学する参加者

8/22

目指せ未来のプロ選手 コンサドーレサッカー教室

北 海道コンサドーレ札幌のサッカー教室が行われ、町内の保育所、幼稚園に通う子どもたちが元気にボールを追いかけていました。

コンサドーレ北海道スポーツクラブのスタッフがコーチを務め、ボール遊びの要素を取り入れた練習を通じてボールの蹴り方などを学びました。

子どもたちはボールを追ってグラウンドを駆け回り、ゴールを決めるとうれしそうに笑顔を見せていました。



コーチからサッカーを教わる子どもたち

8/25

美しいまちづくりに貢献 高橋建設が草刈りボランティア

高 橋建設が草刈りのボランティア活動を行いました。

同社が地域貢献活動として、2008年から継続しており、大原調整池周辺の法面で実施しました。

約15人の作業員が、調整池の周囲およそ4500㎡内に生い茂った雑草を刈り取りました。

作業は約6時間かけて行われ、厳しい日差しを耐えながらまちの景観を守ろうと汗を流しました。



草を刈る作業員

8/24

洞爺湖の見どころを案内 虻田高が観光模擬ガイド

虻 田高校（千葉佳貴校長）の3年生15人が遊覧船で虻田中学校3年生に向けて、模擬ガイドを行いました。

地域ビジネスの授業の一環で、自分たちで調べたことを基にガイド内容を考えました。遊覧船に乗り込み、洞爺湖誕生の歴史や周辺地域の特徴、有名な農産物、観光スポットなど、洞爺湖町ならではの魅力を伝えました。

9月には温泉小学校児童に向けたガイドも実施しています。



中学生に向けてガイドをする虻高生徒